

◆ 巻頭言

APEC 女性リーダーズネットワーク(WLN)
会合の日本開催を経て

家本 賢太郎

まさに、APEC 参加 21 エコノミー（国・地域）における産・官・学・民の各セクターの女性の力が総結集した 3 日間（9 月 19 日～21 日）だった。

WLN 会合は APEC の議長国がホスト国を兼ねており、日本では開催にあたって実行委員会を発足させ、1 年以上前から準備を進めてきた。今回は「女性と経済」というキーワードにフォーカス。「女性による新たな経済活動の創造—人・自然・文化を活かす—」というテーマで、女性の活躍の場が経済分野においても広がる可能性について議論が展開された。実は、この日程の前後に上海と東京、岐阜で、それぞれ同規模の女性リーダーの会合が予定されていることが準備段階で判明。参加目標 500 人が果たして集まるのかと不安があった。いざふたを開けてみれば最終的には定員を超える申込があり、WLN が参加者の国際的な交流の場として既に十分に定着していることを強く印象づけた。

会議では、女性の経済分野への進出にあたりそれぞれが乗り越えてきた壁や課題をオープンに共有し、女性の活躍できる分野に制限はないことが実例をもって示された。一方では、WLN は女性だけでなく男性の参加も促すべきとの意見もあった。また、WLN として取りまとめる提言において数値目標を設定し、より実効性をもたせるべきとの声が会議の初日から繰り返し聞かれた。この結果、提言としては初めて KPI（主要実績評価指標）が盛り込まれ、企業における女性の役員数・比率や女性の経営者数、さらには ABAC（APEC ビジネス諮問委員会）のメンバーにおける女性比率の 3 点を採択している。

最終日に開かれた Farewell Dinner は途中からダンスパーティに様変わりし、私は圧倒的少数派である男性の 1 人として引っ張り出され、さまざまな言語での交流を楽しんだ。議論も重要であると同時に交流も重要な目的の 1 つ。これが WLN の本質なのかもしれない。

順当にいけば 21 年後、再度ホスト国となる時の日本では、女性の経済分野での活躍がどの程度進んでいるのか。ふり返れば今回がスタートになるかもしれない。



PROFILE

家本 賢太郎
(いへもと けんたろう)

(株)クララオンライン代表取締役社長。1997 年、同社設立。1981 年生まれ。名古屋市出身。2001 年 9 月、慶應義塾大学環境情報学部入学。2007 年 3 月早稲田大学大学院スポーツ科学研究科修了。APEC WLN 会合実行委員会委員、NHK 中央放送番組審議会委員(2007.11～)、内閣府男女共同参画会議議員(2009.1～)。